

分水嶺

1年前のきょうだった。大垣信用金庫(本部大垣市)と西濃信用金庫(同瑞穂市)が合併を発表した、とのニュース。本紙朝刊は1面トップなどに大きく掲載した。その合併日が連休明けのあさって12日。「大垣西濃信用金庫」が誕生する▼「金融再編の波が岐阜にも来たか」と受け止めた合併発表。経営の健全性を示す自己資本比率は大垣信金が12%台、西濃信金が15%台。国内基準の4%を大きく上回る▼それでも合併するのは「人口減少、市場縮小に対応するには個々の努力では限界がある」との判断からだ。1年前の記者会見で両理事長が理由を説明した▼両信金が地盤とする県西部は、二つの有力地銀と預金量2兆円を超す巨大信金もせめぎ合う。従来以上に激しくなりそうだ▼「あっという間の1年だった」と栗田順公大垣信金理事長。千以上の協議項目を10の部会が計350回の会合で話し合ってきた。ウォーキングイベントや準備の進捗を伝える毎月の壁新聞などで、両職員の一体感を醸成してきた▼各業界で進む再編。少子高齢化の影響は大きい。「地域金融機関は地域と共に成長する運命共同体」。ある金融機関トップの言葉を思い出す。地域をどうもり立てるか。金融機関の役割は重要だ。

2016 1.10